

## 私と憲法9条

富家雅子（元理学部教員）

真っ青の晴れ上がった秋空に銀色の飛行機がひとつ。とても美しい景色なのに恐怖を感じて走り出し靴のまま家の中をかけこんだのをはっきり覚えています。私は小学校一年生。始めて米軍飛行機が東京に現れた1944年（昭和19年）のことでした。この敵機襲来で、母は福岡県の田舎の実家へ疎開することを決心しました。おかげで翌年3月の東京大空襲を受けることなく今日まで生きてきました。しかし田舎に頼れる知り合いがなかった人、疎開の費用のなかった人など東京に残った人達は、8万5千人の人がこの空襲で死に、100万人が家を失っています。

翌年8月敗戦の日を迎え、校長先生は全校生徒を集め「日本は今日アメリカに負けてしまったけれど、皆さんが大きくなったら、アメリカに復讐して下さい」と訓辞しました。まさか60年後、アメリカの言いなりにイラクに軍隊を出す国になっているとは校長先生は想像もしなかったでしょう。私はもう空襲はないのだと、うれしかっただけでした。田舎での生活は、親はそれなりに苦労したでしょうが、大都会ほどの食料難はなく、貧しいけれど安定したものでした。

やがて兵隊に行っていた先生が小学校に戻ってきて「民主主義教育」が始まりました。1946年（昭和21年）新しい憲法が施行されたのですが、9条の戦争放棄については何も覚えていません。日本は占領下にあり、軍隊も財閥も解体されていて、軍隊がないのは当たり前、戦争できないのは当たり前と思っていたのではないかと思います。深く意味を考えるにはまだ幼すぎました。ただこの「民主主義教育」は幼い私に強い影響を与えました。ほとんど一生を左右するほどの影響だった、と言っても良いくらいです。

戦争から帰って来た先生の中に、5－6年生の時担任だった久保先生という先生がいました。この先生のもと、私たちは5－6人のグループでいつも勉強していました。算数も国語も理科も社会もすべてこのグループで助け合って勉強していました。理解出来た子供は、グループの子みんなが分かるようになるように教えてあげるのは当たり前でした。私のグループにはちーちゃんという小柄な女の子がいて、勉強は苦手でした。特に算数が苦手なので、私はいつも算数を何度も繰り返して教えていました。そうするのが当たり前と思っていたので不満を感じたことなど全くありませんでした。ちーちゃんは良く男の子にいじめられていたので、いじめっ子から守るのも私たちの役目でした。先生は強い意志を持ってすべての子が、みんな勉強が分かるようになるように、助け合っていくように指導されていたに違いありません。

そんなある日、掃除をさぼっていた私は、ひどく先生に叱られてしまいました。「いくら勉強が出来るからと言って、掃除をさぼるような子は人間のくずだ！！」と大声で怒鳴られたのです。優等生（小学校までは優等生だった）を自負していた私は衝撃を受けました。この時の先生の迫力は60年後の今日まではっきり覚えています。人生のいろいろな場面で、自分の「利益」だけを考え、「人間はみな平等である」ということを忘れそうになるとき、「人間のくずだ！」と言った久保先生の声がよみがえって来たような気がします。幼いときに受けた教育というのは恐ろしいものですね。

戦争から帰ってきた先生方が子供達に心を込めて教えた「戦後民主主義」は教育基本法（1947年、昭和22年）に結実しています。これは今、自民党政府によって、日本をダメにする悪の権化のように言われています。人間を平等に見なすのは「悪平等」。人間にもっとも大切な事は自由に金儲け出来ること（新自由主義）。リストラされたり自殺したりするのは「自己責任」だから仕方がない。などなど。これでは人間のくずになれと言われているような気

がします。

「私と9条」というテーマからはずれた事を長々と書いてきてしまいました。しかしイラク戦争開始後の日本や世界の状況をみると、「戦争」と「平等」とは深い関係があるとしみじみ思われます。そして私が受けた「戦後民主主義教育」は、本当の「平和教育」ではないかと思えてきました。どの国も平等であり、どの国の人も人間として平等である。国内でもどの人も平等に尊重される。そして強い人は弱い人を助けるし、強い国は弱い国を助ける。こんな時戦争が成り立つのでしょうか。

イラク戦争開始時、アメリカはイラクに大量破壊兵器がある、と言って戦争に踏み切りました。アメリカには世界最大の「大量破壊兵器」があり、地球を何度も破壊できる様な核兵器があるにもかかわらずです。イラクの大量破壊兵器も実はなかったと認めたアメリカが、イラク国民に謝ったと言う話はもちろんありません。戦争の結果、イラク人の戦闘による死者は3万9千人に達し、食糧難や医療体制の不備など間接的な戦争による死者を含めると、10万人に達すると言われています。イラク人とアメリカ人は平等の人間でしょうか。

アメリカ国民の間にも不平等があります。映画華氏911の監督マイケル・ムーアが言っているように。アメリカ上院議員の息子でイラクに戦争に行っている人はいないし、息子に「イラクに行け」と言っている人もいません。実際兵士になっているのは、アメリカ国籍が欲しいヒスパニックの人や、大学に行く学費を稼ぐ必要のある母子家庭の子、就職のない貧しい地方の人など、弱い立場の人が圧倒的に多いのです。戦争はいつも権力を持っている人達が、貧しい人達の犠牲（死）によって自分の利益を上げようとする行為に他なりません。久保先生ならそういう人達を「人間のくずだ」と言うことでしょうか。

日本も小泉内閣になって以来、労働者の首切り（リストラ）、賃金切り下げ、パート・アルバイト・派遣社員などの労働者の増加などによって「国民みな中流」といわれた頃から一転して貧富の差が増大しています。おまけに、金持ちには減税、貧乏人には増税の政策が追い打ちをかけています。その結果、日本は自殺大国になり、いまは「希望格差社会（希望を持てる子と持てない子がいる社会）」となってしまいました。これからは兵士を調達するのに困らなくなるでしょう。一方傲慢になった権力者や経済界トップは、もっと自分たちの利益を追求しようと、武器輸出の解禁、憲法9条の改正を大声で主張し始めました。彼らは自分や自分の息子が自衛隊に入ってイラクへ行くなど決して考えていません。日本もこのまま行けばアメリカのように、日常的に、貧乏人に犠牲の上に戦争をする国になっていくことでしょうか。

かって戦争から帰って来た先生たちは、幼い私たちに、みんなが平等に、助け合って生活し、戦争のない平和な国に生きられるように心を込めて教育してくれました。私たちの力が足りなかったため、今の日本の様な現状になってしまいました。これからの子供達のためにこの流れを何とか食い止め、出来れば逆流させたいと思っています。憲法9条改悪を許さない事が私の当面の目標です。